

# NUBIC知的財産情報開示

開示日： 2015年03月19日

各位

NUBIC知的財産情報の要約をお届けいたします。  
尚、NUBICベンチャークラブ特別会員、一般会員にはすでにお知らせしています。

出願番号	2014-107161	整理番号	11843	担当者	松岡 義人
表 題	pH変化により発光波長が変わる蛍光pHセンサーヌクレオシド				
技術分野	食品・バイオ	化学・薬品			
適用製品	蛍光pHセンサー分子、細胞内の局所的なpH検出試薬、DNAやRNAの検出試薬				
目 的	我々は以前、酸性から中性のpHにおいて蛍光発光するヌクレオシドを報告している。これらの蛍光pHセンサーヌクレオシドは特定のpHを境に蛍光発光のon-offが切り替わる分子であるが、発光波長(色)は変化しない。より高感度で正確な検出を行いたい場合は、発光波長が変化する蛍光分子が好ましいと言える。そこで、pH環境変化に伴って発光波長を変化させる新しい蛍光pHセンサー分子の開発を行なった。				
技術概要	pH変化により発光波長を変化させる、新規蛍光pHセンサーヌクレオシドを開発した。我々がこれまでに開発してきたピリジン骨格を含む蛍光pHセンサーヌクレオシドは、塩基性～中性にかけて緑色で発光し、酸性領域で消光する性質を示していたが、本発明の蛍光pHセンサーヌクレオシドは塩基性～中性にかけて緑色で発光し、酸性領域でより長波長の黄色で発光する。 蛍光強度がon-offで切り替わる従来の化合物に比べて、蛍光発光波長が変化する本発明の化合物は、検出感度(S(シグナル)/N(ノイズ)比)の向上が期待され、センサー分子としての応用の幅がより広がると考えられる。また、ヌクレオシド誘導体であることから、発色団のみの時よりも溶解性がよくなり、細胞膜透過性の向上も期待される。さらにオリゴヌクレオチド鎖への導入も容易であることから蛍光DNAプローブへの応用も期待される。				

技術移転等をご希望の場合は、下記事項をご記入の上、本用紙にてお申込みください。

(FAX, e-mail, 郵送いずれでも可。)

各担当コーディネーターからご連絡を差し上げます。

面談希望日時	<input type="text"/>				
(ふりがな) 氏 名	<input type="text"/>				
会社名	<input type="text"/>				
所 属	<input type="text"/>	役職	<input type="text"/>		
電話番号	<input type="text"/>	FAX番号	<input type="text"/>		
E-mail	<input type="text"/>				
連絡事項	<input type="text"/>				



【申込み・問い合わせ先】

日本大学産官学連携知財センター(NUBIC)

〒102-8275 東京都千代田区九段南4-8-24 日本大学会館

TEL:03-5275-8139 FAX:03-5275-8328 E-mail:nubic@nihon-u.ac.jp